

教育相談キャリアアップフィールド コース名：児童・生徒の理解（アセスメント）

学校教育専修 伊藤宗親

1. 研修内容（事前アナウンス）

問題を呈していたり、気がかりな児童・生徒に如何に関わるのか、その手だてを考える前提としてのアセスメントの力を養う。アセスメントに必要な多角的な視点や具体的方法について学ぶ。
参加条件：事例提供が可能なこと。

2. 研修の実際

(1) 参加人数 8名（小学校6名，中学校2名）

(2) 実施期間 平成16年7月28日（初日）から9月2日（最終日）

(3) 初日

ガイダンス：自己紹介、本コースへの期待や自身の目標設定等について報告。

アセスメントの考え方・事例報告の作法、AIMSに関する講義。

事例検討：参加者の中から一事例を提供して頂き、問題点の把握とその整理、対応の適切さについて討議。担当者から事例へのアドバイスを。

自主研修期間の課題：上記、事例検討から学んだことを踏まえて、各自持参した事例について、あらためてまとめ直す。そして、その両者の差異について検討する。

(4) AIMSを活用し、参加者間の交流や担当者への質問等が活発になされた。

(5) 最終日：まとめ直した事例ならびにまとめ直し前後の差異や新たに獲得した。視点などについて各自発表。これらについて全体討議を行った。

3. 感想と課題

本コースの意図は、参加者自身の固定した視点を見直し、より柔軟な理解を促すことに焦点を当てたものであったが、教育相談という性質上、身近な事例についての「こたえ」を求める傾向が強かったように思われる。したがって、問題意識（自らが解決しようとの姿勢）が比較的弱いとも受け取れ、研修において自らが解決できるようにとの動機づけをいかに高めるかが今後の課題であると思われる。

他方、参加者からは、期間の設定を除き、ある程度研修の意義があったとのフィードバックを受けている。

また、担当者としても教員が教育相談活動において、どのような点で困難を感じるかを知るよい機会であった。